

平成5(1993)年度～9(1997)年度

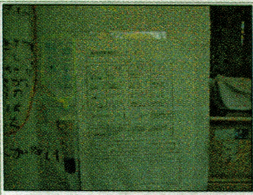
D.B.C.

(Data Base for Children)

PROJECT

報告書

● 情報カード



入れかえ 書き出し 編集 表示

コメント:

ぼくの、思ったこと長三池は、どんな魚がいるかです。なぜかという、ぼくは、ぜんぜん魚のことを調べてないからです。それと、バックテストです。僕は、1か所の水として調べて無いので、長三池の他の場所では、バックテストの色が違ふと、思います。分からないことは、実な虫のことです。

*カード名: 自由研究長三池

*記入者: 羽根井小学校

*場所: 愛知県豊橋市

*記入日: 1995年10月4日 水曜日 4:00:18 PM

*活動日: 1995年8月20日 日曜日

*天気: 17:00 晴れ, 35℃, 35%

カード名: 自由研究長三池

記入者: 金子晴美

場所: 愛知県豊橋市

記入日: 1995年10月04日 水曜日 4:00:18 PM

活動日: 1995年8月20日 日曜日

時間:

天気:

気温:

湿度:

分類:

川 橋 本 水 生 魚 植物 雑草

捨てる 複製 新しいカード < 集める > カード一覧 < 55 >

観察さんのカードの一覧です。

- カード1へ
- カード2へ
- カード3へ
- カード4へ
- カード5へ
- カード6へ

ホームへ

カード名: 結晶の形と薬品の種類による違い

記入者: 多摩市立多摩中学校 池田理科

活動日: 1995年5月23日

記入日: 1995年11月17日 金曜日 2:16:24 PM

メモ: 理科 結晶の観察
 溶液(硫酸銅)で 結晶の形を観察 不食塩 硫酸銅 硫酸ナトリウムの結晶を作って 硫酸銅溶液を作った 硫酸銅溶液を硫酸銅溶液に入れて置いて作った 結晶 ビーカーで作った結晶

観察さんの「カード名: 結晶の形と薬品の種類による違い」へ寄せられたメッセージです

さがす

メッセージ記入欄

あなたの名前:

メッセージを送る とりけし

平成10年5月

NHK 学校放送番組部

Ⅱ. ネットワークを活用した

遠隔地共同学習に成果

横浜市立本町小学校

教諭 出口 和 生

exit@honcho-es.naka.yokohama.jp

1. 各校との交流の様子

・平成7年度

横浜市立本町小学校は、平成7年度放送教育全国大会愛知大会における豊橋市立羽根井小学校の交流相手校として、平成6年度末より本プロジェクトに参加した。本校としても平成7年度は全国小学校社会科研究協議会授業校、そしてほぼ同時期に決定した文部省／通産省の100校プロジェクト対象校として、新たな通信ネットワークによる授業実践を模索していたときであった。



この年の放送教育全国大会で求められていたものは、2年前に完成されていたDBCを用いた交流ではなく、放送教育（特にハイビジョン）を学習に生かし、通信ネットワークを活用した遠隔地共同学習であった。また、本校は社会科の全国大会ということで、地域学習やインターネットを生かした先進的な社会科学習が求められていた。そこで、羽根井小学校との間で、4年生社会科学習におけるカリキュラムの検討がなされ、本校4年生の



社会科学習をベースとして放送教育を生かした共同学習を進める姉妹校のような関係へと発展した。

11月の発表までの間に、ファーストクラスを用いた日常的な交流と、本校「横浜の開発」と羽根井小「豊橋の水」の学習をクロスさせた授業実践が続けられ、11月には双方全国大会の授業校として、全国に

先進的な取り組みを公開することができた。

しかし、この間MAC環境にあった羽根井小学校側ではMAC用として開発されていたDBCを用いたデータベース作成が行われていたが、Windows環境の本校は、残念ながらDBCの本格的活用には至らず、Windows版の早期開発を要望し続けた。そこで本校では、羽根井小から送られてきたDBCデータを貸与されていたMAC上で閲覧し、こちらからの情報発信では、子どもたちの集めたデータをファーストクラスの添付メールで羽根井小に送ったり、インターネットを活用したホームページ作成によるデータベース化の方策をとっていった。なお、この後も羽根井小との交流は継続している。

・平成8年度

NHK側からプロジェクト方針の提示のないままスタートした平成8年度は、100校プロジェクトの本格活動期とも重なり、本校のDBC活用計画はストップした。また同時に本プロジェクト上での本校の立場も不明確なものとなっていた。DBCプロジェクトとしての正式な依頼もなく、羽根井小への協力校という立場も終了してしまったのだ。

そんなある日、100校プロジェクト対象校としてホームページへの地域情報掲載を続けていたとき、本プロジェクトに大きな変化をもたらした新たな出会いがあった。本校は横浜市中心部という繁華街の中にあり、田植え体験ができないことから、校舎屋上で「バケツ稲」と呼ばれる栽培活動を2年生が行い、その様子をホームページ公開していた。すると、和歌山県熊野川町立熊野川小学校から1通のメールが届いたのだ。

「どうして、そんなところで稲を育てるのですか。育つわけがないよ。」というもので、これに対して本校2年生の必死の栽培活動、そして熊野川小2年生との交流がスタートした。

メールを中心として、双方の稲の成育状況を比較しながら生活科の学習が進行し、遠隔地交流によるメリットがたいへん大きな実践となった。また、この交流から派生し、熊野川小と本校との環境の違いを「五感マップ」という形で双方のホームページ上で公開して、地域比較学習へも発展していった。



・平成9年度

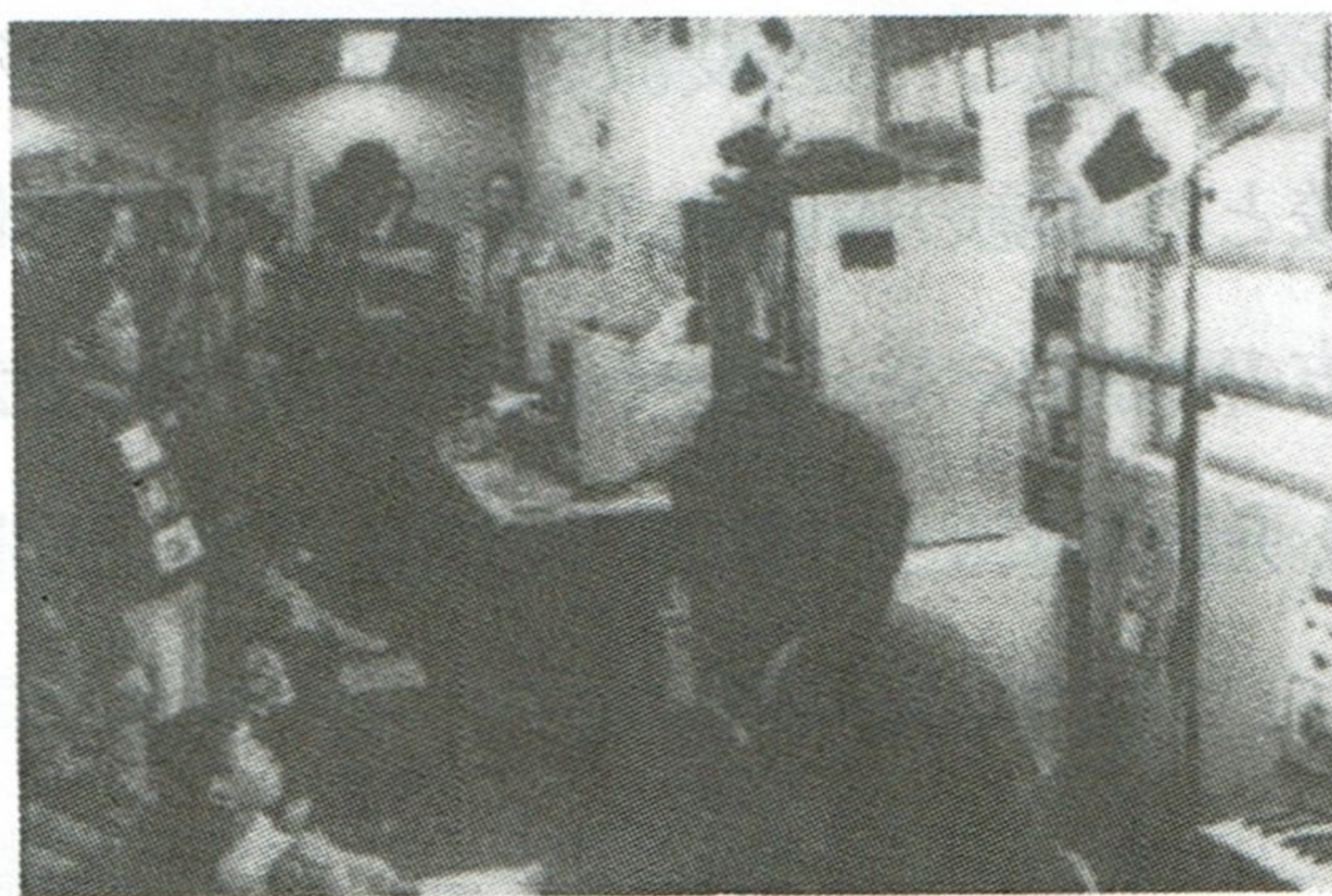
平成8年度の実践をベースとして、熊野川小学校も本プロジェクトに加わることとなり、前年度に実現できなかった「TV会議システムによるリアルタイム交流」への道を探り始めた。それは、もちろん平成9年度放送教育全国大会岡山大会会場校平福小学校への協力をも考えてのことであつた。しかし、平福小とは平成7年度羽根井小、平成8年度熊野川小のようにカリキュラムを融合させて授業ベースでの交流をするには至らなかった。そのため、クラブ活動での資料提供やNHK「たった一つの地球」番組視聴後のインターネット投稿などの形で協力となった。



熊野川小とは、前年度に引き続き「2年生稲交流」が行われた。1学期はメールでの交流を続け、2学期にホームページや4年生がザリガニを送ってもらうなどの多学年にわたる交流に発展させていった。更に念願のTV会議によるリアルタイム交流を実現できる環境が整い、2学期後半から3学期末まで10回以上のTV会議交流を実現し、2年生の子どもたちの遠隔地共同学習として、昨年度のものを更にバージョンアップさせた実践を行うことができた。なお、この実践に関しては、平成10年2月7日放送のNHK教育テレビ「メディアと教育」の中で紹介されている。

羽根井小学校とは、2年前のように連絡を密にした実践はできなかったが、同じ4年生同士で相手のことを意識した授業展開をしていった。たとえば、1学期社会科「水」の授業では羽根井小学校が調べている郡上八幡のVTRを送っていただき、その浄化システムを横浜の浄化システムと比較する学習へと展開していった。また、「ごみ」の学習では、地域施設「クリーンセンター」で見たことや感動したことを伝える相手として羽根井小学校の4年生を意識していた子もたくさんいた。この実践に関しても、平成9年7月5日放送のNHK教育テレビ「メディアと教育」の中で紹介された。

金沢大学附属小学校とは、11月に予定されていた双方研究発表会に合わせたTV会議による理科・社会の授業実践を行った。金沢大学附属小学校側はDBC-webを活用したホームページを立ち上げていたので、そのページを見て「なき砂と環境保全」についての情報収集を行った。本校



側は「みなとみらい21と開発」についての学習を進め、TV会議では、「環境」か「開発」かという討論に発展し、全国からの参観者にTV会議システムを用いたリアルタイム共同学習の可能性についてアピールすることができた。



2. 3年間のプロジェクトを終えて

本校ではDBCはほとんど機能しなかった。

その理由の第一はコンピュータ環境の問題だった。平成9年になりWindows版のDBCも開発されたが、デジタルカメラ画像などがJPGファイルで扱われていたためDBCに画像を取り込むことがたいへんだった。また、データベースという概念が小学生に理解できるのかどうかという根本的なところでもたいへん疑問を感じた。それゆえDBC自体が自然消滅してしまったと感じている。

それとは対照的に、ネットワークを活用した遠隔地共同学習では前述のように大きな成果を上げた。ISDN回線が一本あるだけで、あとはそれぞれの学校間で様々な実践が成立していった。放送番組を生かした遠隔地共同学習はますます発展していくことだろう。

(でぐち・かずお)